



小川 龍美 議員 (公明党)

「子ども食堂」への支援について問う

町長 支援できることもあると思う

質問 近年、地域の子どもたちに無料や低額で食事を提供する「子ども食堂」が全国的に増えている。我が町でも、4月から自主グループによる子ども食堂がスタートしたが、運営には場所や食材の確保、調理や配膳をする人などが必要となり、現在は寄付とボランティアで賄っている。しかしながら、安定的かつ発展的に続けていくには官民挙げての取り組みが必要と考える。そこで、町はどのような支援ができるのか、町長の所見を伺う。

町長 子ども食堂は、大変すばらしいボランティア活動だと思っ

ている。町としては、特に継続性、公平性と自主性が確保できるのである。衛生面や食材の安定供給の相談、町施設の利用など、支援できることもあると思う。また、町では子供だけではなく、高齢者の孤食解消も課題としており、行政自身が乗り出すべきではないかと



子ども食堂で提供された食事

町長 国や都の相談機関と連携し、適切な支援につながるように取り組んでいく。

自衛防止にSNSの活用を

こんな質問もありました

町長 SNSの活用は、町民の安全と良好な生活環境の確保に役立ちます。町民の安全と良好な生活環境の確保に役立ちます。

質問 4月3日、米軍と防衛相は、特殊作戦機CV-22オスプレイの横田基地への配備を前倒しで今年の夏頃に5機配備すると突然発表しました。このオスプレイは、何度も墜落事故を起こし、事故率は普通段飛んでいるC-130輸送機の5倍、世界で最も危険な軍用機の一つである。

町長 オスプレイの配備は、延期された後、再度変更された。国の責任において十分な説明

町長 航空機運用に関する安全対策の徹底と環境への配慮の、より詳細な情報提供を求めている。今後、都および基地周辺自治体と一丸となって対応を進める。

また、安全保障の体系で、戦後70年以上にわたる、基地運用は国の専管事項であり、国防の問題に賛否を唱える立場にない考えは変わらない。引き続き、町民の安全と良好な生活環境の確保を国に求めていく。



4月に横田基地に飛来したCV-22オスプレイ

こんな質問もありました
「西多摩郡」呼称の廃止を
町長 他町村に同意を得られるよう進めていく。

町長 町民の安全と良好な生活環境の確保を国に求めていく

オスプレイ横田基地配備撤回への取り組みを

大坪 国広 議員 (日本共産党)



高水 永雄 議員 (自民新政会)

どうする子供の居場所づくり

町長 移動児童館事業の充実、既存施設の活用で進めざるを得ない

質問 日本の子供の数が37年連続で減少している。町でも14歳以下の子供が10年間で約1,100人減少しており、将来が危惧されている。次代を担う貴重な子供たちのため、一人でも多く健全育成できる環境づくりをさらに充実する必要があると考える。そこで、現状での核家族化の増加等を考えると異世代交流ができる瑞穂町ならではの居場所づくりが急務であると思われるが、町長・教育長の所見を伺う。

町長 新たな児童館建設を望む声もあるが、現状では、移動児童館事業を充実させ、既存の施設を活用した子供居場所づくりを進めざるを得ない。保護者企業、地域が家庭機能をともに補完し合わな



「寄り合いハウスいこい」に立ち寄った子供たち



1月に行われた文化財防火デーに伴う消防演習 (狭山神社)

質問 瑞穂町消防団の組織等に関する規則は、消防組織法(昭和22年)第18条第2項の規定に基づき昭和22年11月、4分団4地区と定め創設した。その後昭和33年10月、合併により元狭山地区を第5分団として設置し、現在に至っている(昭和52年3月31日規則第3号)。約70年前、約40年前と道路環境の変化、各地区世帯数・人口の変動等も考え、各分団の担当地区を見直す時期と考えるが、町長の所見を伺う。

町長 現時点で見直しを図る必要はないと考える

瑞穂町消防団各分団の担当地区の見直しを

石川 修 議員 (自民新政会)

